

# つながり

発行者：川崎市立上丸子小学校  
 児童理解ワーキング  
 道徳部会

## 考えよう、大切な友達 ～道徳の取組から～

6月は、「児童指導点検強化月間」でした。道徳では、全学年で友達との関わりに関連した学習をしました。いじめを未然に防いだり、仮に発生したときにも、自分たちで解決できる力をつけたりすることは、子どもたちが将来、よりよく生きていくためにとても大切な力となります。道徳の授業を「要」として、学校教育全体を通して子どもたちの「友達を大切にしていこう」とする心を育てていきます。

### 授業の内容

#### 【1年】なかよくね (よりよい学校生活、集団生活の充実)

学校内での集団生活を描いた絵を見て、学校で過ごす友達の中には、性別の違い、髪型の違い、出身地の違い、服の好みの違いなどがあることに気付きました。そして、友達と仲よくしたり、助け合ったりすると、どんなよいことがあるかを考えました。

#### 【2年】ぶらんこ

(相互理解・寛容)

くまさんがどうして並んでいるブランコの列に割り込んでしまったのか、どうしたらよかったのかを考え、普段の生活の中でもきまりを守ったり、相手を思いやったりする心の大切さを考えました。

#### 【3年】にてない人となかよくなれるの？

(相互理解・寛容)

肌や瞳の色が違う人達が、ある共通点をきっかけに仲よくなるお話を通して、いろいろな人と仲よくするために大切なことをみんなで考えました。相手のことを大切にすることを育てていきたいと思います。

### 児童の感想

- みんな同じじゃないから楽しい
- 自分と違うからといって、嫌なことをすると、嫌な気持ちになる
- 一人一人、違って当たり前
- 違うことを認め合っていきたい
- いろいろな友達と仲良くしたい
- 受け入れることで、自分も相手もいい気持ちになる

- やっぱり同じ友達なので、なかまはずれとかおかしいよ。やさしくしなきゃだめだよ。
- ブランコにのるまえに「のっていい？」ってきいてみたらいいんじゃない。じゅんばんこだよ。
- のりたい気もちもわかるよ。でもその気もちをちゃんと伝えてあげようね。がんばって！

- 共通点がないようでも、相手のことを知ることで共通点生まれ仲よくなることができる。
- 同じところがないと思っても、同じところは必ずある。
- ちがいがあっても、仲良くなれると思った。
- 自分と似ていない人とも、やさしさがあれば、なかよくできると思った。
- どんな人とも関わって、なかよくなりたい。

#### 【4年】ひとりぼっちのＹちゃん（公正・公平）

クラスメートを仲間外れにしてしまった「わたし」の姿を通して、誰に対しても公平に接することの大切さを考えました。相手を傷つけてしまったり、仲間を嫌な気持ちにさせてしまったり、何より自分も嫌な気持ちになることに気づき、だれに対しても公平に接することが大切に気づきました。

- みんなが笑顔になれるから、誰に対しても公平にすればけんかがなくなるとわかりました。公平にすれば、楽しいクラスにできるのではないかと思います。
- 自分はおもしろ半分でもやっていても、相手はいやだから、公平に接して、自分だけでなくみんなが笑顔になるといいと思います。

#### 【5年】すれちがい（相互理解・寛容）

相手の立場を考える大切さを学びました。友達と心のすれちがいが起きてしまったらどうすればよいかを考え、自分と異なる立場を尊重し、相手のことを広い言葉で受け止め、自分の言動を見直すことの大切さが分かりました。

- だれが悪いとかではなく、相手の話を聞いて、ちゃんと納得すればよいと思った。
- 心のすれ違いがあつたら、くわしく伝えるのも大切だけど、相手の立場をしっかりと理解することがとても大切なんだと思った。
- 私自身も、たまに互いが勘違いをしてしまって、いやな気持ちになったことが何回かあったので、これからはすぐに怒らずに、しっかりと授業を把握して、お互いに話し合って解決していきたい。

#### 【6年】この胸の痛みを（相互理解・寛容）

仲良しの女子3人組が、「避けられている」「悪口を言っていると言っていた」といったことをきっかけに、互いに無視しあうようになっていった話を通して、自分たちの友達との接し方について考えました。「広い心」で人と接するとはどういうことか、真剣に考える様子が見られました。

- 私も友達とのトラブルがあつたり、うまく仲直りできなかったりしたことがあります。最後の場面を読んで、自分が体験したつらい気持ちを友達にも味わわせてしまうような悲しい出来事が起きないように、広い心で友達と接したいです。
- 広い心で人と接しないとみんなが嫌な思いをするので、人に優しくして、「もし〇〇したら」と想像し、考えて行動するべきだと思いました。



道徳の授業の後、テレビ朝会で校長から「寛容」「心の広さ」についての話がありました。校長は「違う考えがあるから、よりよいものが創れる。だから一人一人の違いを認め合い、相手の立場になって考えることが大切だ」と話しました。この気持ちのことを「寛容」といい、そのためには道徳の授業などで広い心を育てていこうと伝えました。子どもたちはうなずきながら真剣に聞いていたようでした。

子どもたちが、よりよい人間関係を築くためにはこの「寛容」な心を育てていくことが大切であると思います。いじめを生まない雰囲気や環境を作っていくためにも、この互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てていきたいです。

道徳の授業を中心に様々な学習活動の中で、自分自身のことを振り返ったり、友達の考えを聞いたりする機会を作り、よりよい友達との関係について考えていければと思います。ご家庭でも話題にいただければと思います。